

随筆

タイ駐在記

渡 辺 嘉 三

1. はじめに

私は2017年4月から2023年2月までの5年10ヶ月間、タイで駐在生活を経験しました。

タイではKYB Steering (Thailand) (以下KST)でパワーステアリング用ポンプとCVT用ポンプの製造拠点に勤めました。

元々設計しか知らない中、製造拠点での仕事がどの様なものか期待と不安を胸に駐在生活がはじまりました。その中で色々な経験をさせて頂いたので、その一部を紹介します。



写真1 KSTロビー（間接部署）



写真2 KSTロビー（マネージメントメンバー）

2. 食事

赴任前、タイ料理といえばまず頭に浮かぶのは、代表的なガパオライス、トムヤンクンという辛い料

理だけでした。幸いなことに自分は辛い料理が好きな方だったため、あまり身構えていませんでした。

歓迎会で現地スタッフが気を使い最初は辛い料理を準備してくれたため、辛い料理もあるのかと思っていたら、徐々に辛い料理が出てきました。

東南アジア特有の水有りビールで口の中を冷やしながら、何とか全部食べきった後、食事について聞いたところ、後半に出てきた料理はタイ人でも食べられない人がいるような激辛料理でした。ですので、このテスト（歓迎会）で、私は一般的なタイ人レベルより少し辛くてもOKなので、なんでも食べられると判定されました。

余談ですが、辛い料理がベースのタイ料理ですが、辛い料理が全く食べられない人がいるようで驚きました。

上記のテスト結果があったおかげで、食事会の際は、みなさんから辛い料理をはじめ色々勧められたので、とても美味しい思いができました。

勧められた中でも、とても驚いた果物があったので紹介させていただきます。名前はノイナーで大きさはリンゴ程度、表面はワニ皮のようで、少し見た目は怖いですが、見た目に反し熟しているものは手で割って食べられる程にふくら柔らかく、食べるととっても甘くておいしいです。英語名（カスタードアップル）を聞いて、まさにその通りと納得しました。

私は単身赴任だったので、最初の一年間はもっぱら外食かスーパーで買っていましたが、2年目頃から少し自炊に目覚め、最初は休日の朝ごはん（スクランブルエッグ程度）と簡単なところからはじまり、炒め物、焼き物、タイ料理（ガパオライス、ムーゴップ⇒豚肉の揚げ物）と少しずつレパートリーを増やしました。おかげで込み入ったものはできませんが、簡単なものは作れるようになりました。

この経験があったおかげで、コロナが蔓延した際、長期連休中、家で缶詰になった時の暇つぶしに大いに役に立ちました。



写真3 料理

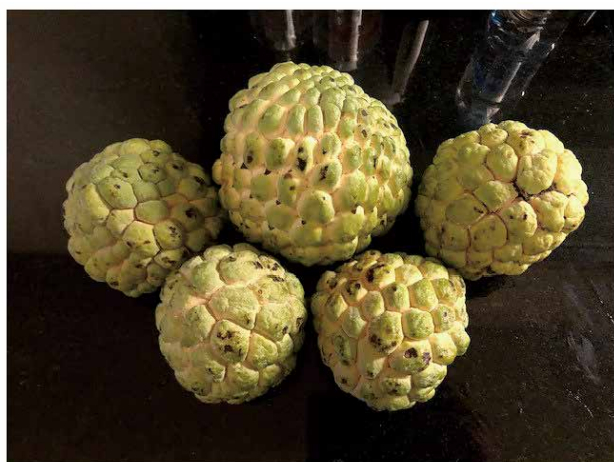


写真4 ノイナー

3. イベント

タイは南国なだけあり、年間平均は30℃近くあります。特に暑いのは4月で、世界的に有名な水かけ祭りが催されます。コロナ前まで参加していましたが、水かけスポットへ行くと道路脇には水鉄砲や水水をバケツ一杯に準備した露店が所狭しと並んで、水かけに訪れた人たちが手ぶらで行っても参加できる準備が万端です。

そのようなスポットが各所にあり、場所によって、家族連れが多く、おとなし目の場所や、外国人（観光客?）が多く激しく水かけ合う場所や、水かけに加え小麦を水に溶いたものを塗りあう場所があったりとそれぞれに特色があり、それらをはしごするのがとても面白かったです。

場所によっては問題が起きないように、警察官が立っているところもあり、少し緊張しましたが、お祭りということもあったせいか、道路脇から様子を撮影していた際、観光客と思ったのか近くにいた警察官が撮ってあげると声をかけてくれました。

治安維持だけではなく、楽しませることに気を使っており、流石、微笑みの国!と思いました。

公共の場では上記のような催しがありますが、会社では連休前はお坊さんと呼んで、お参りをしてもらったり、お菓子が配られたりと、各会社によって特色があります。KSTでは、連休前の最終日は社長はじめマネジメントメンバーは玄関前に座らされ、スタッフ全員から水を掛けられるイベントが設けられます。

1年目は携帯や財布をロッカーに入れて玄関まで来るよう言われ、訳も分からず座っているとイベントスタート。最初は手に少し水をかける程度でしたが、段々エスカレートしていき、足、体、頭、最後にはバケツで全身にかけられ、全身をお清めしてもらいました。

そのため、2年目は1年目の経験を活かし、水鉄砲を持参しスタッフをお清め返しました。2年目でしたので、スタッフとの仲も良くなっていたので、水まき用のホースが出動し1年目にも増して念入りにお清めされましたが、遠慮なく触れ合える関係が築けていたと、安心した一面もありました。

他にKSTでは【スポーツデイ】や【フットサル大会】を開催していました。フットサル大会はKST内の3チームの大会と、タイ3社（KYB Thailand, KYB Asian Pacific, KST）の3チームの大会があります。タイ3社の大会は優勝すると、賞金に加え日本のスポーツ大会に参加できる権利が授与されるため、みんな目の色を変えて臨んでいました。

自分は日本でフットサルをやっていたこともあり、たまに定時後はスタッフと一緒にフットサルをしていたため、みんなの普段のプレイを見て知っていましたが、大会ではみんなの意気込みが違うため、普段とは別人の動きを見せるスタッフを見て、思いはパフォーマンスに大きく影響するものだなと、しみじみ思いました。

赴任期間中に優勝することはかなわなかったですが、仲間と一緒に一つのことに向かって進むのは、遊びの面だけでなく、業務の面でも仲間意識が高まり、効率も上がったと感じましたので、コロナが明け始めた今年から、またタイでの大会は再開できればと思っています。



写真5 KST大会



写真6 タイ3社大会

4. 言語（英語・タイ語）

当方、元々、英語が得意ではありませんでした。赴任前の語学研修で少し会話できる程度のレベルになったと、少しだけ安心していましたが、いざ赴任してみると、最初から打ちのめされました。

まず、最初にタイ独特の発音やアクセント（タイングリッシュ）で聞き取れないことに大変苦労しました。例えば「カバー」と言われ、わからないので何度も何度も聞き返している内に、【カバー/Cover】とわかりました。そこから、基本的に英語をローマ字読みすることが判りました。何度も聞き返すと申し訳ない気持ちになりますが、このようなことを繰り返すことで、私はタイングリッシュへの理解が深まり、ローカルスタッフは私のジャパングリッシュへの理解が深まることで、コミュニケーションのレベルが上がり、意思疎通が取れるようになりました。

その後、英語で思ったことを話せるレベルになり、多少自信を持っていた時、アメリカ人と仕事をする

ことになりました。次こそはと息巻いて挑んだ打合せでは、既に口も耳もタイングリッシュにチューニングしていたこともあり、全く聞き取れず、またまた打ちのめされる羽目に合いました。この際も結局は何度も聞き返す作戦を発動させること+相手が合わせてユックリ話してくれたこともあり、何とかなりました。その経験がベースとなり、相手や話題により良し悪しはありますが、困ったときはいつも同じ対応をして乗り越えるパターンができ、今でも一つの良い対策となっています。

英語で一点面白いなと思ったことがありました。それはタイ人同士で仕事の話をする際、100%タイ語ではなく、10~20%は英語を織り交ぜて使っていたことです。とある本によると、外から色々な文化が急激に入ってきたため、文化の進歩が言葉の進歩を上回った結果、タイ語にない言葉が存在するようで、業務等の特定の条件下では英語を使って話をするようです。なるほど、タイはそういう国なのかと思いつつも、和製英語で日本語が出てこない単語が多々あり日本もそうなのかと勝手に親近感がわいていました。

英語とは全く別で、タイ語は数字や料理の名前等の必要最低限の単語だけ覚え、その他は業務上、日常的に使われる単語を耳にする程度で、座学での勉強は一切しませんでした。がしかし、6年も聞いていると耳が覚えるのか、タイ人同士で仕事の話をしている条件のみ、何となく話している内容が分かるようになりました。

100%の理解ではありませんが、話の方向性やいい状態か悪い状態か分かるので、途中から会話に入るととても驚かれます。これはスタッフが自分の知らないところで困っていたり、うまく活動が進まないような状況にある時、とても有効なスキルの一つで、重宝しました。

5. 仕事

KSTは250名程の小さな工場ですが、工場営業、ポンプ部品調達、原価管理、経理、人事等々、小さな工場には様々な部署があります。私はこれまでずっと設計業務のみしか経験がなかったため、工場勤務で何が出来るか、コミュニケーションが取れるか等々、非常に不安で一杯でした。

1年目は日本からの移管プロジェクトの管理と設計業務と似た要素がある品質関係について取り組みました。慣れない場所、慣れない業務の中、右往左往していましたが、日本からの製品移管だったこと

もあり、日本の金山工場の各部門の皆さんはじめ、色々な方から様々なサポートをして頂き、何とか移管を完了することができました。

その後、2年目に原価管理、3年目に工場営業、4年目にポンプ部品調達の実務を持つ業務を受け持つことになりました。

原価管理は北工場の原価企画、調達、金山工場の製造、生技から原低活動のターゲット設定のベースデータや、実際の案件等を共有頂き、KSTの活動をどの様に管理/推進するかを決めるのにとっても役に立ちました。

工場営業と、ポンプ部品調達に関しても各営業、調達から日本の状況や、これまでの活動や、調達方

針説明等々の情報を共有頂き、これまでのKSTの工場営業/ポンプ部品調達から一歩進んだ業務を加えることができ各部の機能を強化できました。

6. 終わりに

振り返ると、約6年の駐在期間は非常に多くの方々のサポートがあったからこそ、KSTで色々な改善ができたこと、改めて実感しています。

駐在中、お世話になりました日本の関係者の皆様、各拠点の駐在員の皆様、また、KSTのローカルスタッフにはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

また、本文では記載しきれないほど、様々な経験できる機会を頂きありがとうございました。

著者



渡辺 嘉三

2005年入社 オートモーティブコンポーネンツ事業本部 車載機器事業部
技術部 ポンプ設計室
EPS開発センター、PSポンプ技術部、KYB Steering (Thailand) 駐在を経て現職